
夢芝居屋さん

sur

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

夢芝居屋さん

【Nコード】

N9299H

【作者名】

sur

【あらすじ】

一週間に一回。広場にやってきて誰か一人を選んで、その日の夜に選ばれた人の夢の中へやってきていろんな世界へ連れて行ってくれる。それが夢芝居屋さん。ある日、広場で遊んでいた雪の元に夢芝居さんがやってきて「君の夢へ行く」と言ってきた。雪はどこへ行き、何を見て、どこへたどり着くのか。それを、これからあなたに語りましょう。

第一幕：君の夢へ行くよ

「なあ、今日は街に夢芝居屋さんがやってくるんだって」

「本当に！？楽しみだなあ。今日は誰に夢を見させてくれるんだろうな。」

元気に広場を走り回り、鼻の頭や頬に小さく浮いた汗の粒を地面にぽたりぽたりと垂らしながら、少年たちは興奮したように語る。

その少年たちの中で雪という少女はびくびくと怯えながらケンジのＴシャツの裾をひっぱり、後ろに隠れていた。黒髪でショートヘアの大人しい女の子。頬は上気し、大きな黒い瞳をパチパチとさせながら様子をうかがうように上目使いでユウスケに尋ねる。

「あう…ゆめしばい屋さんって…なあに。」

舌たらずな口調で雪が聞く。

「あれ、雪知らねえの。夢芝居屋さんは一週間に一回広場にやってきて俺らの中から誰か一人を選んでさ、その日の夜にそいつの夢の中にやって来ていろんな世界へ連れて行ってくれるんだ。」

「あうう…なんかそれってこわくないのかなあ。」

雪は極端に怖がりだ。いや、そもそも勉強ができなくてトロい雪はもともと同年齢の子供たちからいじめを受けていた。みんなのよくに普通じゃない。子どもの世界ではそれだけで迫害の対象となってしまうものだ。常に弱い者が狙われる。そうして、いじめられ続

けてきた雪は他人に対して極度に反応してしまったり、恐れたりしてしまうのだ。

だが、今はケンジとユウスケのおかげで子供たちの世界に違和感もなく溶け込んでいられる。もともと目鼻立ちも良くて可愛い雪は仲間内では癒し役になっている。もちろん本人はそのようなことに全然気が付いていないのだが。

「別に怖くないって、ゲームとか映画とかアニメみたいなもんだよ。絶対楽しいって、あゝ俺も選ばれないかなあ。」

「わ、私はいいよう……。あ、あのね……可愛い夢をみたらね。泣いちゃいそうになるの。一人でいるのがすごくこわくなるの。」

「そう心配すんなって。きっと楽しい夢を見させてくれるよ」

「……うん！ありがとぉ！」

雪は可愛らしいきらきらとした笑顔を見せながらユウスケやケンジ、周りに仲間たちにお礼を言う。その普段あまり見せない笑顔がとても素敵だったのでケンジやユウスケは思わずドキッとしてしまった。

ある程度時間がたち、空が橙色で埋め尽くされ太陽は西に傾き、豆腐屋のブウ……ファ……という叙情を誘う独特の寂しいラップ音が聞こえ、もうそろそろ帰ろうか、となった時に何かの楽器を背負った男が雪たちの前に現れた。

男はシャンプーというものを一回も使ったことが無いのではないかというような、もじやもじやでボリユームが付きすぎたパーマヘ

アーで、体にピタツと密着したようなサイケデリックなピンク色の服を着て、さらに下も同じピンク色のパンタロンを穿いて、なにやら怪しいそれでいてちよつと色気のあるような恰好で、さつきから背負っている細長いバッグの中から何かの楽器を取り出した。

（よくテレビでみるような…あれはなんだろうー。ギターとか…ベースかなあ。）雪には判断がつかなかったが恐らくはそれに近いもののだろうなと思った。

そして男は、眉毛をすべて剃り上げてしまった生気のない顔で「お化けだか幽霊だかよくわからないけど、とにかくそんなようなものから伝言があるんだあ。」と言い。真っ直ぐに、それは死んだ魚のような目なのだが、それでもじつと力強く雪の目を見つめていた。

「えっ…。」

「今日は君を選んだ。それは…うちらが名前も知らないそれは君を選んだ。今日は君の夢に行くよ」

「あ、あの…あの…夢。あ…私、いいです！ほ、ほかの人のところに行つてあげてください！」

どもりながらもはっきりと否定をする雪。しかし男は、ただ一言こう言った。

「君の夢へ行く。」

― 続 ―

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9299h/>

夢芝居屋さん

2010年10月11日11時35分発行